



全国学力・学習状況調査の結果を指導に生かす

校長 松井 克仁

先日、今年4月に全国全ての小6・中3年生が行った「全国学力・学習状況調査」の結果が公表されました。新聞等で報道があったのでご存じの方も多いと思います。それによると、岐阜県の小学校6年生の国語と算数の平均は全国平均と比べてどちらも約2ポイント低く、全国順位は43位、中学校3年生は国語・数学・英語どれも全国平均より約2ポイント高く、同5～6位となりました。小学校6年生が低く、中学校3年生が高い傾向は本調査が始まった頃から変わりませんが、今回は例年に比べ小学校の順位が下がり、中学校の順位が上がる結果となりました。

教科	明智小（全国との比較）	
	R 4	R 5
国語	▼	▲▲
算数	▼	▲
全国平均との差：▲（-1.1～-5.0p）、▲▲（-5.1～-10.0p）、▼（-10.1p以上）		

では、本校の6年生の結果はどうだったでしょうか。正確な数値を紙面でお伝えすることはできませんが、右上図にある通り、昨年度同様国語も算数も全国平均より低い結果となりました。しかし、算数では岐阜県平均より高く、全国平均よりわずかですが低い結果となりました。国語でも県や全国平均より低くなりましたが、昨年度と比べると大幅な改善が見られます。

文部科学省も言っているように、この調査が表すのは学力の一部であり、この結果に一喜一憂する必要はありません。しかし、我々教員が日頃授業等で指導している内容をもとに出題されていますので、この結果を真摯に受け止め、どこで間違ったのか、何につまずいているのか等しっかりと分析し、これからの授業での指導改善に生かしていきたいと考えています。

生きる力の土台「見えない学力」を伸ばすには…

一般的に、これらの学力は「見える学力」と言われています。数値として示すことができるからです。漢字が正しく書ける、計算が正しくできる、文章問題に正しく答えることができる等、「知識・技能」と言われるものです。この「見える学力」を支える土台には、「見えない学力（＝非認知能力）」があると言われています。これはテストでは測定できない能力で、「意欲」や「協調性」、「粘り強さ」、「自己肯定感」等が含まれます。いろいろな書物等によると、これからのAI等が進展する予測困難な時代には、自分で考え実践する力が求められるため、この「見えない学力」を育むことがより重要になってくると言われています。

実際に学校の授業では、問題をまずは自分で考えることを大切にしています。その後分からないことは仲間にも聞いたり教科書等で調べたりします。さらに全体で考えを共有しながら答えを導き出します。これらを通して、粘り強さや「もっとやってみよう！」と意欲を高められるようにしています。また、日常生活では、仲間と協力することを大切にしています。お互いに声を掛け合ったり、呼びかけに応えたりする関係づくりです。さらに、帰りの会で行う「いいこと見つけ」では、「（例）〇〇さんが、進んで手伝っていたのすごかったです」など、見つけた仲間のよさを紹介し合っています。教師も子供たちのよさをたくさん価値付けています。こうして、子供たちの自己肯定感を高め、自信をもってチャレンジしたり、あきらめずにやり抜いたりできるよう指導を心がけています。

ご家庭でも、日頃から「よく頑張ったね」「友達と仲良くしようね」など、子供たちの意欲や協調性を育むために声をかけてくださっていることと思います。これらに加え、「見えない学力」を育むものには、「規則正しい生活」が重要だと言われています。「早寝・早起き・朝ごはん」もこれに含まれます。今日から2学期が始まりました。ご家庭でも規則正しい生活を心掛けていただき、勉強も遊びも元気いっぱい頑張る子供の姿がたくさん見られるよう、ご協力をお願いします。